

博士論文（要約）

中国古典文学に描かれた厠と井戸の研究
——正と負の厠神・井戸をめぐる・轆轤と瓶——

氏名 山崎 藍

(2) 目次

緒言

第一章 六朝、唐代の廁觀について——正と負の廁神——

一 はじめに

二 日本、中國における廁關連研究の整理

三 建築物としての廁

四 害惡をもたらす負の廁神——附・廁での禁忌——

五 正の廁神

五一一 紫姑について——紫姑關連先行研究の問題點——

五一二 紫姑と糞土信仰との關連

六 正と負の廁觀の共存——結びにかえて——

第二章 元稹悼亡詩「夢井」新釋 ——中國古代における井戸觀の一側面——

一 はじめに

二 清らかさ——民を養う井戸——

三 閉塞感——淀んだ井戸——

四 異界への通り道としての井戸

五 故郷の景象と井桐——時の経過と憂愁——

六 元稹「夢井」の位置

六一一 「夢井」原文および先行研究の整理

六一二 瓶の意義——黄泉と瓶——

六一三 「夢井」における井戸——井戸の捉え方——

七 おわりに

第三章 死者を悼んで旋回する ——元稹「夢井」における「遶井」の意味——

一 はじめに

二 問題提起

三 「めぐる」行爲に關する先行研究の整理

四 「夢井」における「めぐる」行爲（一）——「徘徊遶井顧」——

五 「夢井」における「めぐる」行爲（二）——「還來遶井哭」——

五一一 季札とカッサパ——先秦から唐まで——

五一二 宋から清における「めぐる」行爲

五一三 現代中國の「旋棺」「旋墓」——「夢井」「還來遶井哭」解釋——

六 終わりに——今後の課題——

第四章 「遶牀」について ——李白「長干行二首 其一」の解釋と旋回儀禮——

一 はじめに

二 「長干行二首 其一」原文および問題提起

三 「青梅」について——梅と愛、婚姻——

四 めぐる行爲と婚姻儀禮——「帳」「廬」と「遶牀」——

五 「長干行」の「牀」——唐代の詩文における井牀と『伊勢物語』——

六 まとめ

第五章 李賀「後園鑿井」考——六朝・唐代における瓶、轆轤の描寫を通じて

一 はじめに

二 李賀「後園鑿井」原文と注釋整理

三 李賀「後園鑿井」解釋——第一句から第二句「井上轆轤 牀上轉」——

四 李賀「後園鑿井」解釋

——第三句から第六句「水聲繁 絲聲淺 情若何 苟奉情」——

五 李賀「後園鑿井」解釋——第七句から第十句・時間と太陽——

六 終わりに

結論

参考文献一覽

(3) 本文

すでに出版契約されていて全文公表できません。

書誌事項

著者名 山崎藍

題名 中国古典文学に描かれた厠・井戸・簪一民俗学的視点に基づく考察

出版社 勉誠出版

出版年 2021年2月

ISBN 978-4-585-29200-5

Cコード C3098

(4) 参考文献一覧

- 原典資料は、引用をした文献以外にも、内容に言及し、文章を実際に参照した文献を挙げた。
- 原典資料は四部分類に従って配列した。
- 単著に收められている論文については、単行本の部で書名を挙げた。学会誌や論文集に收められている論文は、論文の部に題名を挙げた。
- 単行本、論文は使用言語別に配列した。そのため、中国人が書いた論文でも日本語であれば和文の書に入れた。
- 和文研究書と論文の部には、和文概説書や事典類も入れた。
- 和書と和文論文は著者の五十音順に、中国書と中文論文は著者のピンイン順に配列した。

中文原典資料

經部

① 注疏合刻類

清·阮元校勘『十三經注疏』（藝文印書館、一九五五年）

十三經注疏整理委員會整理『十三經注疏』（北京大學出版社、二〇〇〇年）

② 五經總義類

唐·陸德明、黃焯彙校『經典釋文』（中華書局、一九八三年）

③ 小學類

後漢·劉熙、畢沅疏證、王先謙補『釋名疏證補』（上海古籍出版社、二〇〇八年）

清·王引之『經傳釋詞』（岳麗書社、一九八四年）

史部

① 正史類

前漢·司馬遷『史記』（中華書局、一九五九年）

後漢·班固『漢書』（中華書局、一九六二年）

唐·房玄齡等『晉書』（中華書局、一九七四年）

梁·蕭子顯『南齊書』（中華書局、一九七二年）

唐·魏徵等『隋書』（中華書局、一九七三年）

唐·李延壽『南史』（中華書局、一九七五年）

唐·李延壽『北史』（中華書局、一九七四年）

後晉·劉昫等『舊唐書』（中華書局、一九七五年）

北宋·歐陽脩等『新唐書』（中華書局、一九七五年）

元·脫脫等『遼史』（中華書局、一九七四年）

唐·房玄齡等、許嘉璐分史主編『二十四史全譯 晉書』（漢語大詞典出版社、二〇〇四年）

清·錢大昕『元史藝文志』（錢大昕、陳文和主編『嘉定錢大昕全集』（五）所收、江蘇古籍出版社、一九九七年）

②時令類

- 睡虎地秦墓竹簡整理小組編『睡虎地秦墓竹簡』（文物出版社、二〇〇一年）
明·馮應京『月令廣義』（萬曆三十年序刊本）

③地理類

- 北宋·樂史『宋本太平寰宇記』（中華書局、二〇〇〇年）
北宋·樂史、王文楚等點校『太平寰宇記』（中華書局、二〇〇七年）
清·沈清世等纂修『江陰縣志』（康熙二十二年序刊本）
清·于成龍等修、清·杜果等纂『江西通志』（康熙二十二年序刊本）
清·王新命等修『江南通志』（康熙二十三年序刊本）
清·管竭忠纂修、清·張沐等編訂『開封府志』（康熙三十四年序刊本）
清·劉於義等修、清·沈青崖纂『陝西通志』（雍正十三年刊本）
梁·宗懔、王毓榮著『荊楚歲時記校注』（文津出版社、一九八八年）
梁·宗懔、守屋美都雄譯注『荊楚歲時記』（平凡社、一九七八年）
南宋·范成大、陸振岳校點『吳郡志』（江蘇古籍出版社、一九九九年）
南宋·孟元老等『東京夢華錄（他四種）』（古典文學出版社、一九五六年）

④書目類

- 余嘉錫『四庫提要辨證』（中華書局、一九八〇年）
明·白雲霽『道藏目錄詳註』（『文淵閣四庫全書』臺灣商務印書館）

子部

①醫家類

- 唐·孫思邈、劉清國等校注『千金方』（中國中醫藥出版社、一九九八年）
北宋·唐慎微、尚志鈞等『證類本草·重修政和經史證類備用本草』（華夏出版社、一九九三年）
南宋·張杲、明·俞辨續『醫說·附續醫說』（上海科學技術出版社、一九八四年）
明·李時珍『本草綱目』（人民衛生出版社、一九五七年）

明·李時珍『本草綱目（校點本）』（人民衛生出版社、一九七五年）

②譜錄類

元·闕名撰『居家必用事類全集』（『北京圖書館古籍珍本叢刊』第六十一冊所收、書目文獻出版社、一九八八年）

③雜家類

清·孫詒讓、孫啓治點校『墨子閒詁』（中華書局、二〇〇一年）

南宋·吳曾『能改齋漫錄』（上海古籍出版社、一九六〇年）

南宋·程大昌『演繁露』（『全宋筆記』第四編一八所收、大象出版社、二〇〇八年）

後漢·應劭、王利器校注『風俗通義校注』（中華書局、一九八一年）

北宋·沈括、胡道靜校證『夢溪筆談校證』（上海古籍出版社、一九八七年）

吳越·陳纂『葆光錄』（『北京圖書館古籍珍本叢刊』第八十四冊陽山顧氏文房小說四十種所收、書目文獻出版社、一九八八年）

④類書類

唐·歐陽詢、汪紹楹校『藝文類聚』（中華書局、一九六五年）

唐·虞世南『北堂書鈔』（學苑出版社、一九九八年）

唐·徐堅等『初學記』（中華書局、一九六二年）

北宋·李昉等『太平御覽』（中華書局、一九六〇年）

明·陳耀文『天中記』（文海出版社、一九六四年）

明·董斯張『廣博物志』（岳麗書社、一九九一年）

清·陳夢雷、清·蔣廷錫校訂『古今圖書集成』（中華書局·巴蜀書社、一九八五年）

清·徐珂『清稗類鈔』（中華書局、一九八四年）

⑤小說家類

南朝宋·劉義慶、余嘉錫撰、周祖謨·余淑宜·周士琦整理『世說新語箋疏』（上海古籍出版社、一九九三年）

唐·李肇、唐·趙璘『唐國史補·因話錄』（上海古籍出版社、一九五七年）

- 晉·郭璞注、清·郝懿行箋疏『山海經箋疏』(巴蜀書社、一九八五年)
- 晉·干寶、汪紹楹校注『搜神記』(中華書局、一九七九年)
- 晉·干寶、李劍國輯校『新輯搜神記』(中華書局、二〇〇七年)
- 晉·陶潛、汪紹楹校注『搜神後記』(中華書局、一九八一年)
- 晉·陶潛、李劍國輯校『新輯搜神後記』(中華書局、二〇〇七年)
- 南朝宋·劉敬叔、范寧校點、北齊·陽松玠、程毅中·程有慶輯校『異苑·談藪』(中華書局、一九九六年)
- 唐·張文成、李時人·詹緒左校注『遊仙窟校注』(中華書局、二〇一〇年)
- 唐·唐臨、方詩銘輯校、唐·戴孚、方詩銘輯校『冥報記·廣異記』(中華書局、一九九二年)
- 唐·牛僧孺、唐·李復言、程毅中點校『玄怪錄·續玄怪錄』(中華書局、一九八二年)
- 北宋徐鉉、白化文點校、北宋張師正、白化文·許德楠點校『稽神錄·括異志』(中華書局、一九九六年)
- 北宋·李昉等『太平廣記』(中華書局、一九六一年)
- 北宋·李昉等、張國風會校『太平廣記會校(附索引)』(北京燕山出版社、二〇一一年)
- 南宋·洪邁『夷堅志』(中華書局、一九八一年)
- 袁枚著·王英志主編·周欣校點『袁枚全集四 子不語·續子不語』(江蘇古籍出版社、一九九三年)
- 魯迅『古小說鈎沈』(『魯迅輯錄古籍叢編』(一)、人民文學出版社、一九九九年)
- 晉·張華、范寧校證『博物志校證』(中華書局、一九八〇年)
- 唐·段成式『酉陽雜俎』(中華書局、一九八一年)

⑥釋家類

- 唐·釋道世、周叔迦·蘇晉仁校注『法苑珠林』(中華書局、二〇〇三年)
- 大正新脩大藏經刊行會編『大正新修大藏經』(大正新脩大藏經刊行會、一九六五年)

⑦道家類

- 清·郭慶藩、王孝魚點校『莊子集釋』(中華書局、一九六一年)
- 作者不詳『道藏經目錄』(『正統道藏』正一部 新文豐出版、一九七七年)

集部

①楚辭類

北宋·洪興祖、白化文等點校『楚辭補注』（中華書局、一九八三年）

南宋·朱熹、蔣立甫校點『楚辭集注』（上海古籍出版社·安徽教育出版社、二〇〇一年）

②別集類

唐·王昌齡、李國勝校注『王昌齡詩校注』（文史哲出版社、一九七三年）

唐·王昌齡、李雲逸注『王昌齡詩注』（上海古籍出版社、一九八四年）

唐·王昌齡、胡問濤·羅琴校注『王昌齡編年校注』（巴蜀書社、二〇〇〇年）

唐·李白『李太白文集』（平岡武夫編『李白の作品』同朋社出版、一九七七年）

唐·李白、南宋·楊齊賢集注、元·蕭士贇補注『分類補注李太白詩』（一）（汲古書院、二〇〇五年）

唐·李白、清·王琦注『李太白全集』（中華書局、一九七七年）

唐·李白、詹鍈主編『李白全集校注彙釋集評』（百花文藝出版社、一九九六年）

唐·杜甫、清·仇兆鰲注『杜詩詳注』（中華書局、一九七九年）

唐·戴叔倫、蔣寅校註『戴叔倫詩集校註』（中華書局、二〇一〇年）

唐·顧況、王啓興·張虹注『顧況詩注』（上海古籍出版社、一九九四年）

唐·盧綸、劉初棠校注『盧綸詩集校注』（上海古籍出版社、一九八九年）

唐·韓愈、屈守元·常思春主編、『韓愈全集校注』（四川大學出版社、一九九六年）

唐·柳宗元『柳宗元集』（中華書局、一九七九年）

唐·張籍『唐張司業詩集』（四部叢刊集部景上海涵芬樓藏明刊本、商務印書館、一九一九年—一九二二年）

唐·張籍『張文昌文集』（北京圖書館藏宋蜀刻本影印、上海古籍出版社、一九九四年）

唐·張籍、徐禮節·余恕誠校注『張籍集繫年校注』（中華書局、二〇一一年）

唐·孟郊『孟郊詩集校注』（華忱之·喻學才校注、人民文學出版社、一九九五年）

唐·李賀『歌詩編四卷集外詩一卷』（民國七年、武進董康誦芬室、用宋宣城本景印）

唐·李賀、宋·劉辰翁注、宋·吳正子注『唐李長吉歌詩』（『和刻本漢詩集成』唐詩（五）所收、汲古書院、一九七五年）

唐·李賀、明·曾益注『昌谷集』（東京內閣文庫藏明刊本景照本）

- 唐·李賀、清·王琦注『三家評註李長吉歌詩』（中華書局、一九五九年）
- 唐·李賀、葉葱奇注『李賀詩集』（人民文學出版社、一九五九年）
- 唐·元稹『元氏長慶集』（用弘治元年楊循吉景宋傳鈔本景印、文學古籍刊行社、一九五六年）
- 唐·元稹『新刊元微之文集』（北京圖書館藏宋蜀刻本影印、上海古籍出版社、一九九四年）
- 唐·元稹、冀勤點校『元稹集』（中華書局、一九八二年）
- 唐·元稹、楊軍箋注『元稹集編年箋注』（三秦出版社、二〇〇二年）
- 唐·白居易、謝思煒撰『白居易詩集校注』（中華書局、二〇〇六年）
- 唐·張祜、尹占華校注『張祜詩集校注』（巴蜀書社、二〇〇七年）
- 唐·李商隱、劉學鍇·余恕誠著『李商隱詩歌集解（增訂重排本）』（中華書局、二〇〇四年）
- 北宋·蘇軾、孔凡禮點校『蘇軾文集』（中華書局、一九八六年）
- 北宋·賀鑄、鐘振振校注『東山詞』（上海古籍出版社、一九八九年）
- 南宋·李清照、徐培均箋注『李清照集箋注』（上海古籍出版社、二〇〇二年）

③總集類

- 梁·蕭統編、唐·李善注『文選』（中華書局、一九七七年）
- 梁·蕭統編、唐·李善等注『六臣注文選』（浙江古籍出版社、一九九九年）
- 梁·徐陵編、吳兆宜注、程琰刪補、穆克宏點校『玉臺新詠箋注』（中華書局、一九八五年）
- 北宋·李昉等編『文苑英華』（中華書局、一九六六年）
- 北宋·郭茂倩編『樂府詩集』（中華書局、一九七九年）
- 清·彭定求等編『全唐詩』（中華書局、一九六〇年）
- 遼欽立輯校『先秦漢魏晉南北朝詩』（中華書局、一九八八年）

④詞曲類

- 南唐·李璟、南唐李煜、詹安泰校注『李璟李煜詞』（人民文學出版社、一九五八年）
- 唐圭璋編『全宋詞』（中華書局、一九六五年）
- 後蜀·趙崇祚、李一氓校『花間集校』（人民文學出版社、一九五八年）
- 首都圖書館編輯『清蒙古車王府藏曲本』（北京古籍出版社、一九九一年）
- 王重民等編『敦煌變文集』（人民文學出版社、一九五七年）
- 潘重規編『敦煌變文集新書』（文津出版社、一九九四年）

⑤小説類

清・文康『兒女英雄傳』（上海古籍出版社、一九九一年）

叢書

劉復『敦煌掇瑣』（黃永武主編『敦煌叢刊初集』（十五）、新文豐出版公司、一九八五年）

中國社會科學院歷史研究所、中國敦煌吐魯番學會敦煌古文獻編輯委員會、英國國家圖書館、倫敦大學亞非學院合編『英藏敦煌文獻・漢文佛經以外部份』（四川人民出版社、一九九〇年）

上海古籍出版社、法國國家圖書館編『法國國家圖書館藏敦煌西域文獻』（上海古籍出版社、一九九四年一二〇〇五年）

和書原典資料

黑板勝美・國史大系編集會編輯『新訂增補國史大系 吾妻鏡』（後編）（吉川弘文館、一九六五年）

藤原佐世『宮内廳書陵部所藏室生寺本 日本國見在書目録』（名著刊行會、一九九八年）

堀内秀晃・秋山虔校注『竹取物語 伊勢物語』（岩波書店、一九九七年）

單行本

和書

赤坂憲雄『境界の發生』（講談社、二〇〇二年）

荒井健『李賀』（岩波書店、一九五九年）

飯島吉晴『竈神と廁神——異界と此の世の境——』（講談社、二〇〇七年）

飯島吉晴『一つ目小僧と瓢箪——性と犠牲のフォークロア——』（新曜社、二〇〇一年）

池田秀夫[ほか]『關東の葬送・墓制』（明玄書房、一九七九年）

市原輝士[ほか]『四國の葬送・墓制』（明玄書房、一九七九年）

井之口章次『日本の葬式』（筑摩書房、二〇〇二年）

稻田浩二[ほか]編『日本昔話事典』（弘文堂、一九七七年）

- 内田道夫『北京風俗圖譜』（一）（平凡社、一九六四年）
- 江上波夫[ほか]『江上波夫文化史論集（三）——匈奴の社會と文化——』（山川出版社、一九九九年）
- 江守五夫『日本の婚姻——その歴史と民俗——日本基層文化の民族學的研究Ⅱ』（弘文堂、一九八六年）
- 江守五夫『婚姻の民俗——東アジアの視點から——』（吉川弘文館、一九九八年）
- 大島建彦『民俗信仰の神々』（三彌井書店、二〇〇三年）
- 大室幹雄『圍碁の民話學』（岩波書店、二〇〇四年）
- 岡本不二明『唐宋の小説と社會』（汲古書院、二〇〇三年）
- 笈久美子『李白』（角川書店、一九八八年）
- 笈文生『唐宋文学論考』（創文社、二〇〇二年）
- 鐘方正樹『井戸の考古學』（同成社、二〇〇三年）
- 加納喜光『詩經・Ⅰ——戀愛詩と動植物のシンボリズム——』（汲古書院、二〇〇六年）
- 川合康三『李商隱詩選』（岩波書店、二〇〇八年）
- 川合康三『白樂天詩選』（上）（岩波書店、二〇一一年）
- 鯨井千佐登『境界の現場』（勁草書房、二〇〇六年）
- 黒川洋一『李賀詩選』（岩波書店、一九九三年）
- 礪川全次編著『糞尿の民俗學』（批評社、一九九六年）
- 礪川全次編著『廁と排泄の民俗學』（批評社、二〇〇三年）
- 後藤義隆[ほか]『南中部の葬送・墓制』（明玄書房、一九七九年）
- 小林一男[ほか]『北中部の葬送・墓制』（明玄書房、一九七九年）
- 齋藤响『李賀』（集英社、一九六七年）
- 坂田友宏[ほか]『中國の葬送・墓制』（明玄書房、一九七九年）
- 鈴木清一郎『臺灣舊慣——冠婚葬祭と年中行事——』（臺灣日日新報社、一九三四年）
- 鈴木虎雄『李長吉歌詩集』（下）（岩波書店、一九六一年）
- 鈴木了司『寄生蟲博士の中國トイレ旅行記』（集英社文庫、一九九九年）
- 詹滿江『李商隱研究』（汲古書院、二〇〇五年）
- 武部利男『李白』（下）（岩波書店、一九五八年）
- 竹内實、羅漾明『中國生活誌——黄土高原の衣食住——』（大修館、一九八四年）

- 武田雅哉『猪八戒の大冒険』（三省堂、一九九五年）
- 田邊繁子譯『マヌの法典』（岩波書店、一九七八年）
- 千種達夫『満州家族制度の慣習』（一）（一粒社、一九六四年）
- 中國農村慣行調査刊行會編『中國農村慣行調査』（一）（五）（岩波書店、一九五二年—一九五八年）
- 常光徹『學校の怪談——口承文藝の研究Ⅰ——』（角川書店、二〇〇二年）
- 常光徹『傳説と俗信の世界——口承文藝の研究Ⅱ——』（角川書店、二〇〇二年）
- 常光徹『しぐさの民俗學』（ミネルヴァ書房、二〇〇六年）
- 名嘉眞宜勝・惠原義盛『沖縄・奄美の葬送・墓制』（明玄書房、一九七九年）
- 中野美代子『中國の青い鳥』（平凡社、一九九四年）
- 中野美代子『奇景の圖像學』（角川春樹事務所、一九九六年）
- 長嶺操『沖縄の水の文化誌』（ボーダーインク、一九九二年）
- 中村喬『中國歳時史の研究』（朋友書店、一九九三年）
- 中村正夫[ほか]『九州の葬送・墓制』（明玄書房、一九七九年）
- 中村元譯『ブッダ最後の旅』（岩波書店、一九八〇年）
- 中村元編『佛教語大辭典』（東京書籍、一九八一年）
- 中村元[ほか]編『岩波佛教辭典』（岩波書店、一九八九年）
- 中山太郎『日本民俗學——神事篇——』（大和書房、一九七六年）
- 中山太郎『日本婚姻史』（日文社、一九五六年）
- 永尾龍造『支那民俗誌』（二）（支那民俗誌刊行會、一九四一年）
- 仁平道明『和漢比較文學論考』（武藏野書院、二〇〇〇年）
- 花房英樹『白氏文集の批判的研究』（彙文堂書店、一九六〇年）
- 花房英樹『元稹研究』（彙文堂書店、一九七七年）
- 原田憲雄『李賀歌詩編』（二）（平凡社、一九九九年）
- 日色四郎『日本上代井の研究』（日色四郎先生遺稿出版會、一九六七年）
- 堀哲[ほか]『近畿の葬送・墓制』（明玄書房、一九七九年）
- 松谷みよ子『現代民話考』（七）（筑摩書房、二〇〇三年）
- 松浦友久『李白詩選』（岩波書店、二〇〇四年）
- 松村武雄『日本神話の研究二——個分的研究篇（上）——』培風館、一九五五年

- 三浦貞榮治[ほか]『東北の葬送・墓制』（明玄書房、一九七九年）
- 水野弘元[ほか]編『佛典解題事典』（春秋社、一九七七年）
- 水野清一『中國の佛教美術』（平凡社、一九六八年）
- 三谷榮一『日本文學の民俗學的研究』（有精堂、一九八七年）
- 宮田登『妖怪の民俗學——日本の見えない闇——』（筑摩書房、二〇〇二年）
- メアリ・ダグラス（Mary Douglas）塚本利明譯『汚穢と禁忌』（原題“Purity and Danger: An analysis of concepts of pollution and taboo”）（筑摩書房、二〇〇九年）
- 目加田誠『唐詩三百首』（一）（一九七三年、平凡社）
- 森田英樹編『便所異名集覽<増補版>』（特定非營利活動法人日本下水文化研究會、二〇〇二年）
- 八木奘三郎擔當『滿蒙風俗略誌』（南滿洲鐵道株式會社編『滿蒙全書』（一）所收、滿蒙文化協會、一九二二年）
- 矢島睿『北海道の葬送・墓制』（明玄書房、一九七九年）
- 柳田國男『定本柳田國男集』（四）（筑摩書房、一九六三年）
- 柳田國男『定本柳田國男集』（十八）（筑摩書房、一九六三年）
- 山本博『井戸の研究』（綜藝舎、一九七〇年）
- 山本博『神祕の水と井戸』（學生社、一九七八年）
- 羅信耀『北京風俗大全——城壁と胡同の市民生活誌——』（藤井省三[ほか]譯、平凡社、一九八八年）
- 李家正文『泰西中國トイレット文化考』（雪華社、一九八四年）

中文書

- 常人春『紅白喜事——舊京婚喪禮俗——』（北京燕山出版社、一九九三年）
- 陳瑞隆『慎終追遠——臺灣喪葬禮俗源由——』（世峰出版社、二〇〇五年）
- 陳寅恪『元白詩箋證稿』（上海古籍出版社、一九七八年）
- 陳于柱『敦煌寫本宅經校録研究』（民俗出版社、二〇〇七年）
- 程俊英『詩經譯注』（上海古籍出版社、一九八五年）
- 大連市甘井子區地方志編纂委員會編『甘井子區』（方志出版社、一九九五年）
- 登封縣地方志編纂委員會編『登封縣志』（河南人民出版社、一九九〇年）

杜爾伯特蒙古族自治縣地方志編纂委員會『杜爾伯特蒙古族自治縣志』(黑龍江人民出版社、一九九六年)

樊樹雲『詩經全譯註』(黑龍江人民出版社、一九八六年)

河北省趙縣地方志編纂委員會編『趙縣志』(中國城市出版社、一九九三年)

河北省正定縣地方志編纂委員會編纂『正定縣志』(中國城市出版社、一九九二年)

伊通縣志編纂委員會編著『伊通縣志』(吉林文史出版社、一九九一年)

馬未都『馬未都說收藏家具篇』(中華書局、二〇〇八年)

李劍國『唐五代志怪傳奇敘錄』(南開大學出版社、一九九三年)

婁子匡『新娘·新郎——中國婚族志——』(中國民俗學會·東方文化供應社、一九五三年)

呂一飛『胡族習俗與隋唐風韻』(書目文獻出版社、一九九四年)

羅新本·許蓉生『中國古代賭博習俗』(陝西人民出版社、二〇〇二年)

倪匡『廁所裡有鬼』(皇冠文學出版、一九八八年)

內蒙古自治區杭錦后旗志編纂委員會編『杭錦后旗志』(文物出版社、一九八九年)

彭利藝『宋代婚俗研究』(新文豐出版公司、一九八八年)

岐山縣志編纂委員會編『岐山縣志』(陝西人民出版社、一九九二年)

尚秉和『歷代社會風俗事物考』(上海出版社、一九八九年)

山東省地方史志編纂委員會編『山東省志·民俗志』(山東人民出版社、一九九六年)

山東省淄博市周村區志編纂委員會編『周村區志』(中國社會出版社、一九九二年)

山西省五寨縣志編纂辦公室編『五寨縣志』(人民日報出版社、一九九二年)

山西省忻州市地方志編纂委員會編『忻縣志』(中國科學技術出版社、一九九三年)

陝西省臨潼縣志編纂委員會編『臨潼縣志』(上海人民出版社、一九九一年)

上蔡縣地方史志編纂委員會編『上蔡縣志』(生活·讀書·新知三聯書店、一九九五年)

沈陽市民委民族志編纂辦公室編『沈陽滿族志』(遼寧民族出版社、一九九一年)

譚蟬雪『敦煌婚姻文化』(甘肅人民出版社、一九九三年)

土目特右旗志編纂委員會編『土目特右旗志』(內蒙古人民出版社、一九九四年)

烏丙安『中國民間信仰』(上海人民出版社、一九九五年)

吳存浩『中國婚俗』(山東人民出版社、一九八六年)

吳裕成『中國的井文化』(天津人民出版社、二〇〇二年)

于安瀾『漢魏六朝韻譜』(汲古書院、一九七〇年)

- 王迅・蘇赫巴魯編著『蒙古族風俗志』(上)(中央民族學院出版社、一九九〇年)
- 聞一多『聞一多全集』(四)(湖北人民出版社、一九九三年)
- 新蔡縣地方史志編纂委員會編『新蔡縣志』(中州古籍出版社、一九九四年)
- 邢臺縣地方志編纂委員會編『邢臺縣志』(新華出版社、一九九三年)
- 徐福全『臺灣民間傳統喪葬儀節研究』(徐福全、一九九九年)
- 楊伯峻・何樂士『古漢語語法及其發展』(語文出版社、一九九二年)
- 俞頂賢主編『中國各民族婚俗』(北方婦女兒童出版社、一九八八年)
- 岳慶平『中國全史・中國秦漢習俗史』(人民出版社、一九九四年)
- 張國風『太平廣記版本考述』(中華書局、二〇〇四年)
- 嚴一萍『太平廣記校勘記』(藝文印書館、一九七〇年)
- 中國社會科學院語言研究所古代漢語研究室編『古代漢語虛詞詞典』(商務印書館、一九九九年)
- 周嘯天主編『詩經楚辭鑑賞辭典』(四川辭書出版社、一九九〇年)
- 周祖謨『周祖謨語言文史論集』(浙江古籍出版社、一九八八年)
- 朱大渭[ほか]『魏晉南北朝社會生活史』(中國社會科學出版社、一九九八年)

論文

和文

- 天野元之助「糞肥攷」(『東光』第七號、一九四九年)
- 有馬卓也「『淮南萬畢術』訳注(一)」(『東洋古典学研究第三十四集』、二〇一二年)
- 池澤優「後漢時代の鎮墓文と道教の上奏文の文章構成——『中國道教考古』の検討を中心に——」(渡邊義浩編『兩漢儒教の新研究』所収、汲古書院、二〇〇八年)
- 伊藤美重子「敦煌本「下女夫詞」について」(『お茶の水女子大學中國文學會報』第四號、一九八五年)
- 今井秀周「北方民族の諸儀式で行われた匝回について——魂の天への飛翔を示す中國史料——」(『東海女子短期大學紀要』第二十四號、一九九八年)
- 入谷仙介「悼亡詩について——潘岳から元稹まで——」(『入谷教授小川教授退休記念中國文學語學論集』所収、筑摩書房、一九七四年)
- 上野理・宮谷聰美「伊勢物語と漢文學」(『和漢比較文學叢書(十二)源氏物語と漢文學』

所収、汲古書院、一九九三年)

大藤時彦「廁神考」(『國學院雜誌』第四十七卷十號、一九四一年。礪川全次編著『糞尿の民俗學』批評社、一九九六年影印)

姜若冰「元稹と白居易における夢」(『東アジア研究』第四十三號、二〇〇五年)

倉石あつ子「便所神と家の神」(『信濃(第三次)』第三十一卷第一號、一九七九年。礪川全次編著『糞尿の民俗學』批評社、一九九六年影印)

黒田眞美子「柳宗元の〈狂〉について——「李赤傳」を中心に——」(『法政大學文學部紀要』第六十一號、二〇一〇年)

小松和彦「かはたれ時、たそがれ時——神隠しと隠れんぼのタブー——」(『建築雜誌』一〇六(一三一二)、一九九一年四月號)

小南一郎「壺型の宇宙」(『東方學報』第六十一冊、一九八九年)

小南一郎「漢代の喪葬儀禮——その宇宙論的構造——」(『アジア文化交流研究』第二號、二〇〇七年)

坂野學「元稹「夢井」詩試論」(『函館大學論究』第二十輯、一九八八年)

蕭默「敦煌莫高窟の石窟形式」(『中國石窟——敦煌莫高窟——』(二)所収、平凡社、一九八一年)

高木智見「古代中國における肩脱ぎの習俗について」(『東方學』第七十七輯、一九八九年)

高橋美千子「元稹の夢についての考察」(『中國文學報』第三十二冊、一九八〇年)

田中嗣人「小野篁傳説考」(『華頂博物館學研究』第十號、二〇〇三年)

陳翀「友の亡妻に代わって詩を賦す白居易——元稹の妻韋叢の死とその悼亡唱和詩——」(『日本中國學會報』第五十九集、二〇〇七年)

出口米吉「廁神」(『人類學雜誌』第二十九卷第一號、一九一四年。礪川全次編著『糞尿の民俗學』批評社、一九九六年影印)

戸倉英美「聊齋志異——異を志す流れの中で——」(『東洋文化』第六十一號、一九八一年)

戸倉英美「變身譚の變容——六朝志怪から「聊齋志異」まで——」(『東洋文化』第七十一號、一九九〇年)

西野貞治「敦煌本搜神記について」(『神田博士還曆記念書誌學論集』所収、平凡社、一九五七年)

野原康宏「宋本李賀詩集について」(『颯風』第三十八號、二〇〇五年)

- 原田直枝「江南は瘴癘の地」そして故郷は」（『中國文學報』第七十一冊、二〇〇六年）
- 堀誠「八角井異聞——井中の怪——」（『早稻田大學教育學部學術研究——國語・國文學編——』第四十一號、一九九三年）
- 堀誠「井中奇聞——死生の命と生殖と——」（『中國文學研究』第十九期、一九九三年）
- 堀誠「井中餘聞——鏡と夢と神靈と——」（『中國文學研究』第二十二期、一九九六年）
- 南方熊楠「廁神」（『人類學雜誌』第二十九卷第五號、一九一四年。礪川全次編著『糞尿の民俗學』批評社、一九九六年影印）
- 森下みさ子「境界にたたずむ子ども・老人」（赤坂憲雄編『方法としての境界』所收、新曜社、一九九一年）
- 山本和義「元稹の艶詩及び悼亡詩について」（『中國文學報』第九冊、一九五八年）
- 山本恭子「現代中國における婚禮と葬禮——徐州市周邊農村を例として——」（『人間社會環境研究』第十八號、二〇〇九年）

中文

- 段塔麗「唐代婚俗“繞車三匝、漫議」（『中國典籍與文化』二〇〇一年三期）
- 樊維綱「釋“床、——兼說“床前明月光、“繞床弄青梅、——」（『杭州師範學院學報』一九九二年第一期）
- 龔維英「廁神源流衍變探索」（『貴州文史叢刊』一九九七年第三期）
- 郭曉婷・冷紀平「北京旗人婚俗在清代說唱文學中的體現」（『北京社會科學』二〇一一年第二期）
- 河南省博物館「靈寶張灣漢墓」（『文物』一九七五年十一月）
- 黃石「“迎紫姑”之史的考察」（中國民俗學會編『民俗學集鐫』上海文藝出版社、一九八九年）
- 姜觀吾「鮮卑婚俗在唐代的發展」（『斗城師專學報』一九九四年第四期）
- 康弘「撒帳婚俗述略」（『民間文學論壇』一九九四年第三期）
- 李洪岩「樛蒲考略」（『體育文史』一九八九年第四期）
- 李佳「淺談青州北城滿族的婚禮民俗」（『東南文化』二〇〇五年第一輯）
- 李先耕「說“廁、」（『古漢語研究』一九九一年第一期）
- 李正宇「《下女夫詞》研究」（『敦煌民俗研究』（一）、甘肅人民出版社、一九九五年）

- 劉增貴「魏晉南北朝時代的妾」（『新史學』二卷四期、一九九一年）
- 劉航·李貴「白居易《井底引銀瓶》的民俗學問題」（『文史知識』二〇〇一年第一期）
- 佟悅「子弟書《鴛鴦扣》中的滿族婚俗」（『第二屆國際滿學檢討會論文集』（下）、一九九九年）
- 巫端書「“迎紫姑、風俗演變及其文化思考」（『民俗研究』一九九七年第二期）
- 王宏凱「古棋戲樗蒲」（『文史知識』一九九二年第七期）
- 宣炳善「李白《靜夜思》的民俗學闡釋——兼論樂府傳播的民俗機制——」（『民間文化論壇』一九九八年第二期）
- 顏春峰·汪少華「論“床前明月光”的“床”」（『中國典籍與文化』一九九八年四期）
- 楊朴「詩歌意象背后的原始意象——重解“青梅竹馬”并兼論析李白的《長干行》——」（『名作欣賞』二〇〇九年第十一期）
- 羊玉祥「話說古詩中的“床”」（『文史雜誌』一九九五年第四期）
- 俞香順「中國文學中梧桐意象」（『南京師範大學文學院學報』二〇〇五年第四期）
- 張建林·范培松「淺談漢代的廁」（『文博』一九八七年第四期）
- 張沛「陝西旬陽出土的漢代陶溷廁」（『農業考古』一九八八年第二期）
- 張曉舒「迎紫姑習俗起源新論」（『中南民族學院學報·人文社會科學版』第二十一卷第四期、二〇〇一年）
- 張振濤「旋棺與旋律」（『南京藝術學院學報 音樂與表演版』二〇一〇年〇三期）
- 趙蕾「李白詩“繞床弄青梅”之“床”字新解」（『古典文學知識』二〇〇六年第一期）
- 趙守儼「唐代婚姻禮俗考略」（『文史』第三輯、中華書局、一九六三年）
- 朱鑒珉「床·井欄·轆轤架」（『北京師範大學學報』一九八九年第五期）

英文論文

- Stanley K.Abe 「Art and Practice in a Fifth-Century Chinese Buddhist Cave Temple」
Ars Orientalis, Vol.20,1990

CD-ROM

- 『先秦漢魏晉南北朝詩』CD-ROM（凱希メディアサービス、二〇〇四年）
- 『全唐詩』CD-ROM（凱希メディアサービス、二〇〇五年）

『正統道藏』CD-ROM（凱希メディアサービス、二〇〇七年）

『文淵閣四庫全書』CD-ROM（迪志文化出版、上海人民出版社、一九九九年）

その他

寒泉（全唐詩） <http://libnt.npm.gov.tw/s25/>

京都大學電子圖書館貴重資料畫像（江南通志・江西通志 畫像）

<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/index.html>

(5) 論文の内容の要旨

本稿は、中国古典文学における廁と井戸の描写を分析し、古代中国の人々が廁や井戸をどのような場所と認識していたかを考察するものである。

第一章「六朝、唐代の廁觀について——正と負の廁神——」では、主に六朝から唐まで、廁という空間がどのような場所と考えられていたかを論じた。本章では、廁をこの世と異界との「境界」と見る日本民俗学の成果をもとに、歳時記や文言小説といった文献に加え、糞尿の効能について言及した本草書や、廁の禁忌が記された日用類書をも使用して分析を行い、中国の廁神には凶神と富神の二種類の神が存在し、正と負の「廁觀」（廁に対するイメージ）があることを述べ、廁という空間のもつ二面性を指摘した。また日本の廁神は「廁にいる神」であり、人間の眼に姿が見えず、禁忌を犯さない限り、人間に害を為さないのに対し、中国の廁神は、美しい女性や奇怪な化け物など様々な姿を持って、自在に廁を抜け出すものであることを指摘し、中国の廁神が吉凶二つの性格を持つことの背景には、日本とは異なる廁神の旺盛な「行動力」があったのではないかと考察した。

廁の研究と併せ、廁と同様に縦穴の構造をもつ井戸の分析を進めた。文言小説では、この世と異界を繋ぐ境界としての井戸が多く描かれており、この点は、多くの先行研究によって指摘されている。しかし筆者は、文言小説に加えて中国古典詩歌を検討した結果、詩歌ではこのような「境界としての井戸」は描かれず、詩歌と小説では井戸の何処に注目するかが異なっているとする新たな見解を、第二章「元稹悼亡詩「夢井」新釈——中国古代における井戸觀の一側面——」において提示した。第二章では、後漢揚雄「酒箴」の分析や、壺状の容

器には魂の依り代としての機能があるとする小南一郎氏の見解（「壺型の宇宙」『東方学報』第六十一冊、一九八九年）を井戸の瓶（つるべ）の解釈に応用し、瓶にも魂の依り代としての機能があることを指摘した。そしてこの瓶の機能に基づいて中唐の詩人元稹が制作した悼亡詩「夢井」を分析し、この詩が中国古典詩に普遍的な井戸像を取り入れず、むしろ文言小説で描かれる「境界としての井戸」の発想をもとに作られた、独創的な作品であることを提起し、この作品の新たな解釈を示した。

第三章「死者を悼んで旋回する——元稹「夢井」における「遶井」の意味——」では、第二章で採り上げた唐元稹の悼亡詩「夢井」の中で、妻を悼む男性が二度行っている「井戸をめぐる」（「夢井」では「遶井」と詠まれている）行為について検討した。ものの周囲をめぐる行為は、神霊の送迎や婚姻など、様々な儀礼の一環として行われていたとする日本民俗学や歴史学の先行研究を踏まえ、墓や棺、死者の周りをめぐる行為を描いた経書や中国歴代の詩歌・小説などを分析し、「遶井」の意味を検討した。その結果、一度目の「遶井」は、男性が無意識に行った旋回により、亡くなった妻の魂が招かれ、咸陽の墓穴から井戸を通り、主人公の前に現れたものであると解釈した。二度目の「遶井」は、一度目の「遶井」によって招かれた妻の魂が瓶に宿り、今にも地の底に沈まんとしているのを見た主人公が、妻の死を悼み、別れの悲しみを吐露する為に行った行為であるとする見解を示した。招魂のための旋回は、宋代以降はほとんど例を見ないが、死者を悼んで行う旋回は、『礼記』「壇弓下」の季札に始まり、今日でも中国各地で行われている。この例からも明らかのように、一定の形式をもって繰り返し行われる行為は何らかの強固な意味を持っていたことが想像され、このような行為の意味を研究することは文学作品の理解を深める上でも大きな意義を持っていることを提起した。

第四章「「遶牀」について——李白「長干行二首 其一」の解釈と旋回儀礼——」では、第三章と同じく「遶」という行為を行う李白「長干行二首 其一」を取り上げた。「長干行二首 其一」の第四句「遶牀弄青梅（牀を遶りて青梅を弄す）」については、梅の実が民俗的に男女の愛の象徴となり得たとする指摘がある。しかし「遶牀」に対しては「牀」が井牀か、ベッドか、物を置く台（几案）かを考証する成果は数多くあるものの、「牀を遶る」という行為に着目した研究は管見の限りない。本論は中国の様々な古典文献の中に婚姻における旋回儀礼の例を探し出し、検討した結果、唐代には北方民族の習俗に基づき、新郎新婦の寝室として設けた「廬」の周囲を旋回する儀礼が行われていたことを確認した。また「牀」を詠った詩

歌を分析し、「牀」が井げたを指す場合、詩の中に「井」や「轆轤」、井戸の側に植えられることの多い「梧桐」などの語が見られ、それらの語のない場合、「牀」はほとんどベッドあるいは几案を意味することを指摘した。さらに中国では井戸は不吉なものと出会う場所とされ、婚礼の際には、むしろで覆うなど、その害を防ぐ措置が厳重に行われていたことを指摘した。

以上を総合して、「長干行二首 其一」の冒頭を次のように解釈した。まず門前で花を折って遊んでいた女兒の前に、男児が竹馬に乗って現れ、女兒は男児に淡い恋心を抱いた。第四句「遶牀弄青梅」は男児の行為であるが、この順序で行われたと取る必要はなく、「梅を弄しつつ、牀を遶った」と考えればよい。「擲果」は女性から男性への愛情表現であるという原則に照らせば、今男児の手に梅があることは、女兒から男児へ擲果が行われたことを意味する。女兒からの好意の表明に対し、男児は婚姻儀礼の真似である「遶牀」を行い、自分も女兒に好意を持つことを示した。この「牀」は唐代の婚礼における「廬」に当たり、「井」は婚礼の際に不吉なものとされていたことからすれば、井げたではなく、ベッドと考えるべきであると結論づけた。

第五章「李賀「後園鑿井」考——六朝・唐代における瓶、轆轤の描写を通じて——」においては、第二章で述べた、井戸の瓶（つるべ）が、魂の依り代としての機能をもつことに加え、この瓶を上下させる滑車「轆轤」が、どのように描かれるかを分析し、第一、二句「井上轆轤、牀上転（井上の轆轤、牀上に転ず）」の解釈を試みた。分析の結果、（一）女性が恋人を思う詩に井戸が描かれることは、六朝以来数多く見られるが、同じ主題で轆轤を詠んだ詩は唐代になってから現れたこと（二）唐王昌齡「行路難」や唐顧況「悲歌」などから、轆轤が回転することが、男性の心変わりを暗示するものであることが明らかになった。また、第三、四句「水声繁 糸声浅（水声繁く 糸声浅し）」の解釈では、李賀の作品において対表現として用いられている「繁」・「浅」の意味を考察し、「繁」と「浅」は相対立する意味で使われているもので、水音と縄の音が相和しているとする従来解釈は妥当ではないことを指摘した。以上の分析を総合し、李賀「後園鑿井」は、従来多くの注釈が「男女の情の相和す様子を描く」と解するのに対し、「魂の依り代」としての瓶が、轆轤の回転に翻弄される悲しみを前提に、恋の永続に不安を持つ女性の心を詠った作品であるという新たな解釈を提起した。

本論の主たる特徴は、（一）民俗学的視点を取り入れ、文言小説や史書、筆記の記載に限定

せず、古典詩歌をも対象に加え、空間に対するイメージ分析を行う。(二) 空間には欠かせない道具（井戸ならば、瓶や轆轤など）についても分析を進め、空間のイメージをより多角的視点から解明する。(三) 一定の形式をもって繰り返し行われるしぐさ（本稿では「めぐる」行為）の意義を明らかにするという三点にある。中国の詩歌は、原則として、文人が国家社会に対する感慨を表明するものとされ、その解釈に際して重要なのは、作者の生涯のどんな時期に、社会のどんな状況の下に作られたかを、正確に知ることであるとされてきた。民俗学的視点から見えてくるものは、民衆の習俗にすぎず、それは文人の思想とは別個のものであり、作品理解にとって考慮するに値しないものとされたのである。

しかし本研究は、少なくとも唐代までの詩歌において、井戸・瓶・轆轤・何かの周囲をめぐる行為に対し、共通してある観念が存在したことを明らかに出来るのではないかと考える。この共通観念は、従来の文人の思想の範疇からはずれたもので、現代の我々は資料の調査と分析の末にようやく手がかりを手に入れ、作品の正しい理解にたどり着くことが出来る。だが、作者達は、読者は誰もがそれを知っていること、その観念を共有していることを前提に、詩作をしているのである。これは、広い意味で、ひとつの信仰と呼べるものであろう。本研究は、この信仰に注目することにより、詩歌研究の新たな可能性を探ると共に、古代中国の研究には、まだ未開拓の大きな領域が残されていることを、示すことが出来ればと考えている。